

保護者評価の集計結果 (放課後等デイサービス)

公表：令和6年2月24日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

保護者等数 44、回収数 33 割合 75%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	33			・弥生、結、外と十分なスペースでありがたいです。 ・のびのび過ごせてよい。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	31	2		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	27	5	1	・わかりません。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	33			・よく子どものことを見てくれているなあと思います。 ・これからも自ら考える力をつける為、色々な経験をお願いします。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	31	2		・外での活動、室内での活動、それぞれの子どもが楽しく過ごせていると思う。 ・様々な体験をさせてくれて、感謝しています。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	15	14	4	・どのような活動をしているのか知らないです。 ・まだ入所して間もないので、そういった取り組みがあるのかを知らないです。 ・わかりません。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	32	1		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	30	3		・気になることがある時に、確認しやすい状況ですが、デイでどのような様子なのか、デイから聞く事は少ないので、どうしているのかなあと思うことはある。 ・便りや連絡ノートでその日の出来事を教えてもらい、家での話題にしています。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	28	5		・面談の機会が設定されていても、自分が面談に参加できない現状です。 ・とても助かっています。 ・面談が設けられているか分からないが、施設に行った際は話し合いができて良い。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	12	17	4	・活動があるのか知らないです。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	27	6		・全てに対応できているのかは分かりませんが、先生方で周知できているのであれば、対応できているのではと思います。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	30	3		・お便りや連絡ノート、LINE等を使い疎通できているのではと思います。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	31	2		・毎日の「今日のいっぽ」と、月初めの「いっぽだより」を楽しみにしています。 ・お便りや日々のいっぽ便りで様子がわかってとても良い。
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	32	1		
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	28	5		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	31	2		・もしもの時の行動や、そのための話など子どももしっかり聞いている。
満	17	子どもは通所を楽しみにしているか	32	1		・料理や遊びなどを通して、楽しみながら通所しています。 ・楽しみにしているときもあれば、気分が乗らない日もあるようですが、学校よりも楽しいそうで充実しています。

満足度	18	事業所の支援に満足しているか	31	2	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りで体のことを考えているおやつのおかげで、食べれる物が増えています。 ・安心して通所することができます。 ・子どもにとって過ごしやすい環境、伝え方、様々な面から感謝しています。 ・人数の定員の関係があると思いますが、振替できないのが残念です。
-----	----	----------------	----	---	---

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

保護者等からの事業所評価の集計結果(児童発達支援) (公表)

公表：令和 6年 2月 24日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

保護者等数(児童数) 3 回収数 3 割合 100%

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3					今後も法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保する。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	3					休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性にれた環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3					障がい特性を踏まえ、子どもにわかりやすい空間づくりを目指す。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	3					子どもが落ち着いて活動しやすい家庭的で清潔な環境作りをする。
適切な支援の提	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	3					個別の課題やニーズを基に計画を作成するため、丁寧なアセスメントを心掛ける。
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	3					子どもの特性に合わせ、発達支援、家族支援、地域支援を組み合わせる支援内容を設定する。
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	3					個々の支援計画の内容を確認した上で支援する。

供	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	3				今後も季節や子どもの障がい特性、意向等を考慮し活動内容を検討する。	
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		2	・事業所の小学生との関りはあるが、他はわからない。先生との連絡は行ってくれている。	今まで通り、児童会館や体育館のキッズコーナー等で障害のない子どもとの交流を図る。	
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	3				今後も契約時等に丁寧に説明する。	
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	3				ガイドラインにある提供すべき支援のねらい及び支援内容と、実際の支援計画を示しながら、支援内容を説明する。	
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	2			1	今年度は希望者がいない。今まで通り、毎月のお便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、個別に対応する。	
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	3				・常に手紙、連絡ノートなど子どもが行っていることを教えてくれる。課題についてできたことなど共有されている。	今後も連絡ノートに加え面談等を通して、子どもの様子や課題についての共有に努める。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	3					今後も定期的な面談等を通して子育て相談の支援をする。
⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1			2	仕事など時間の都合が合わず参加できていないことが多く、わからない（保護者同士として）。	今後は食事会等の行事での保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。	

	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	3					相談は電話やLINEで受け付け、内容に合わせて誠実に臨機応変に対応する。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3					絵カードなど障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3					今後も毎月のお便りの発行を継続する。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	3					契約時に個人情報使用同意書を確認、注意して情報を取り扱うようにする。
非常時の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	3					各種マニュアルを契約時に保護者に周知し、訓練を定期的実施する。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3					非常災害計画に基づき、定期的に避難訓練を実施する。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	3					通所が楽しみになる活動を提供するため、支援の振り返りや自己研鑽に努める。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	3					日頃の支援に満足してもらえるよう、支援の振り返りや自己研鑽に努める。

事業所における自己評価結果（児童発達支援）（公表）

公表：令和 6年 2月 24日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

職員数 7 回収数 7 割合100%

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			今後も法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保する。
	② 職員の配置数は適切である	7		休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をしている。	今後も随時職員体制が適正かの判断をする。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2		障がい特性を踏まえ、子どもにわかりやすい空間づくりを目指す。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		朝や夕方に掃除を実施。子どもたちが活動しやすいよう備品等を配置。	子どもが落ち着いて活動しやすい家庭的な環境作りをする。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		全職員が参加する定例会議でPDCAサイクルを行っている。	今後も業務改善はPDCAサイクルを活用し行う。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		アンケートにより課題を抽出し、業務改善に生かしている。	アンケートにより保護者の意向を把握し、業務改善に努める。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		評価結果をホームページにて公開している。	今後も支援の質の評価及び改善の内容を、ホームページで公開する。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		研修計画を基に、必要な研修に参加。	より良い支援を目指し、積極的に各種の研修や講演会に参加する。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		アセスメントにより子どもの特性等を把握し、支援計画を作成している。	個別の課題やニーズを基に計画を作成するため、丁寧なアセスメントを心掛ける。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			今後も個人票とアセスメントシートを活用し、子どもの状況を把握する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			子どもの特性等に合わせ、発達支援、家族支援、地域支援を組み合わせる支援内容を設定する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1		事前に支援計画の内容を確認した上で、支援する。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	担当スタッフで話し合い、活動プログラムを作成。	今後も活動プログラムを打合せで話し合い決定する。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		季節や子どもの特性等を考慮しながら、活動が画一的にならないように配慮。	今後も季節や子どもの障がい特性、意向等を考慮し活動内容を検討する。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7		子どもの状況や課題に応じ、児童発達支援計画を作成。	今後も子どもの状況や課題に合わせて、支援計画を作成する。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝の打合せで支援内容等を確認し合う。	今後も事前に支援の内容や各職員の役割を確認し支援する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		午前中の療育終了後に、担当職員で支援の振り返りを行っている。	今後も担当職員で支援の振り返りを継続し、より支援につなげる。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		業務日誌への支援の記録を基に、支援の振り返りに役立っている。	日々の記録を大事にして、支援の振り返りや改善につなげる。

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	6	1	子どもの状況を定期的なモニタリングで確認し、支援計画を見直している。	今後も定期的なモニタリングを通して、支援計画を見直す。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			今後もサービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加する。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1		関係機関と顔の見える関係作りを大切にするこでスムーズな連携による支援を目指す。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2		今後医療的ケア児を支援する際には、医療的ケアを確認しながら受け入れを検討する。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2		今後も医療機関には協力してもらい、連携できる体制を整える。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3	保育所等に事業所での支援内容を情報提供している。	保育所等との情報共有を図り、子どものスムーズな支援の移行に努める。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		移行支援する際には、行動特性や利用中の様子等の情報提供を行う。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	研修や講習会等に参加し、自己研鑽に努めている。	研修等を通し、専門機関との連携を大切にする。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	3	児童会館や体育館のキッズコーナー等で地域の子どもの交流を図っている。	今後も積極的に障害のない子どもとの交流を図る。
	㉙	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		定期的に協議会等には参加するようにしている。	今後も積極的に協議会等に参加する。

	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡ノートを使い、自宅や事業所での様子等を情報共有している。	日々の連絡ノートや定期的な面談を通して、子どもの様子や課題の共有に努める。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	2		今年度は希望者はいない。今まで通り、毎月のお便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、希望者には個別に対応する。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時等に説明している。	今後も契約時等に丁寧に説明する。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		契約時にガイドラインを配布している。	ガイドラインにある支援のねらい及び支援内容と、実際の支援計画を示しながら、支援内容を説明する。
	③⑭	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		家庭訪問や事業所内での面談を実施した際に相談支援に努めている。	今後も定期的な面談等を通して、子育て相談の支援をする。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		今後は食事会等の行事での保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			相談は電話やLINEで受け付け、内容に合わせて誠実に臨機応変に対応する。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対し発信している	7			今後も毎月のお便りの発行を継続する。
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	7		契約時に個人情報使用同意書を説明し、注意して個人情報を取り扱っている。	今後も注意して個人情報を取り扱う。

	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5	2	近年はコロナ禍のため施設の行事に地域住民を招待していなかった。	今後は地域住民を行事に招待する等地域に開かれた運営を目指す。
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6	1		各種マニュアルを契約時に保護者に周知するとともに、各種訓練を定期的実施する。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	1		非常災害計画に基づき、定期的に避難訓練を実施する。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7		利用前には保護者から病気等にかかわる情報もアセスメントしている。	保護者と情報を共有し、事業所での健康管理に配慮する。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	2	食物アレルギーの情報を保護者と共有した上で、おやつ提供に配慮している。	食物アレルギーのある子どもには代替のおやつを提供することを徹底する。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7		業務日誌にヒヤリハットの出来事を記入し、定例会議等で事例の共有をしている。	重大な事故につながらないように、日誌への記載や、打合せ、定例会議での情報共有に努める。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		虐待防止に係る研修を受けるようにしている。	外部研修と内部研修を通して、虐待防止の対応を再確認し、虐待防止の意識を高める。

	④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	5	2	身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断をする等、指針に沿って対応する。
--	--	---	---	--

事業所における自己評価結果(放課後等デイサービス) (公表)

公表：令和 6年 2月 24日

職員数 11 回収数 11 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切である	11			休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	3	3	子どもが安心できる環境のなかで自主的に行動しやすい環境作りに努める。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11			業務改善は職員会議でPDCAサイクルを活用し行う。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1		事業所評価により保護者の意向を把握し、業務改善に努める。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	2		自己評価等をまとめ、改善内容等をホームページにて公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		4	今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1		研修計画を作成し、各種研修、講演会に参加する。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	1		今後も保護者からの聞き取り等を通じ、丁寧にアセスメントし、個々のニーズを計画に取り入れる。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1	1	今後も個人票やアセスメントシートを活用し子どもの状態を把握する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	4	2	日々の活動プログラムを打合せで話し合い決定する。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	2		季節や子どもの障がい特性、意向等を勘案し活動を検討する。

適切な支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	2	2	日々の活動プログラム表や毎月のお便りに、療育内容や子どもの様子だけではなく、平日、休日、長期休暇に応じた課題を記載することで、ご家族にも周知する。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	1	1	子どもの特性に合わせ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、計画作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	11			午前、午後の打合せで支援内容や各職員の役割を共有する。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	2	6	3	夕方の支援終了後当日の打合せが難しく、次の日の打合せで支援の振り返りをしている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	2		日々の支援内容を適切に記録し、定期的なモニタリングにつなげる。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	10	1		定期的なモニタリングを通して放課後等デイサービス計画を見直す。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	8	2	1	子どもの意向を大切にしながら、ガイドラインに沿って、屋外活動や創作活動、地域交流等行っていく。
関係機関や保護者	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	11			サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が会議に参加し、関係機関と連携している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の連絡調整、送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	10	1		随時学校と情報共有することで、適切な支援につなげる。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4	6	1	医療的ケア児は利用していないが、受け入れる際は医療機関等との連携に努める。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4	5	2	必要に合わせ、子どもの情報収集のため保育所等との連携を図る。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	5	2	今後対象となるケースがあれば情報提供等の連携を行う。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	1	2	研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にしている。

との連携	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	5	5	放課後に小学校との交流を図れるように、学校関係者との関係作りに努める。
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	9	2		地域自立支援協議会には参加するようにしているが、今後も継続して参加する。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	11			連絡ノートや面談等を通して日常的に話しやすい体制を整える。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	10		1	今年度は2件ペアレントトレーニングを実施。今まで通り、お便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、個別に対応する。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10		1	今後も契約時や見学等で説明するようにする。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	10		1	定期的な面談だけではなく、随時保護者からの困りごとに相談対応するようにする。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	3	6	食事会等の行事での、保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10		1	契約時には、事業所内の苦情相談窓口と、行政の受付機関を説明。日頃の対応は、LINE等で苦情につながらないよう相談しやすい環境に努める。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	11			今後も毎月お便りで情報を発信する。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	11			契約時に個人情報使用同意書を確認し、各々の意向に沿って、注意して情報を取り扱う。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9	2		絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	10		1	今年度は8月のお祭りで数名の学校の先生に参加してもらった。コロナ禍で行事を中止していたが、行事を再開しているため、今後は地域住民や関係者も招待し、地域に開かれた運営を目指す。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	11			各種マニュアルを作成しているが、契約時に保護者への周知を徹底する。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	11			定期的に行うため、年間計画に入れ、必ず実施できるよう会議で確認する。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する、適切な対応をしているか	10		1	研修や委員会を通して、虐待防止の意識を高める。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	8	2	1	身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	11			アレルギー検査結果等を保護者と共有し、代替のおやつを提供することを徹底する。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	11			重大な事故につながらないように、ヒヤリハットの日誌への記載や、日々の打ち合わせや定例会議での情報共有に努める。